

## 1 部門目標

院外からの入院依頼症例の収容不能率を 20%未満に抑える。

## 2 業務体制・スタッフ

スタッフは、2 名が退職し、今井郁子医師が非常勤医師となったため、岩松利至、大塚春美、鈴木康浩、大橋美香、石黒利佳および近藤丈太の 6 名となり、昨年度より 3 名の減員となりました。臨床心理士は藤嶋加奈および本田淳子の 2 名（いずれも非常勤）に、4 月より岩田倫佳（常勤）が加わり、計 3 名体制となりました。後期研修医としては、東京女子医大本院より山田彩也子（2022 年 4 月～9 月）、および池端綾音（2022 年 4 月～9 月）、の 2 名、院内小児科より石丸翔一（2022 年 4 月～9 月）、畠野真帆（2022 年 4 月～9 月）、および若月良介（2022 年 10 月～2023 年 3 月）の 3 名が研修を行いました。また以前に当科で研修した吉野忠恕が再度当科にて勤務を行いました（2022 年 7 月～12 月）。院内初期研修医としては、藤岡玖聖が計 3 ヶ月の研修を行いました。

## 3 業務実績

### 1) 入院数および成熟児重症例の増加

2022 年 1 月～12 月の入院数は 303 名で、前年からは 30 名減少しましたが、本年も基本的にはコロナ感染症流行の影響を受けることなく経過いたしました。うち院内出生は 223 名で全体の 73.6%であり、ほぼ例年通りでした。出生体重別では、1000g 未満が 18 名で前年の 13 名から 5 名増加し、1000～1499g は 22 名でほぼ例年並みでした。2021 年は成熟児の重症仮死例が多く 2500g 以上で 3 名の死亡例を認めましたが、本年は同様の症例を認めず 2500g 以上での死亡例はありませんでした。全体での死亡例も 2 例のみで、死亡率は 0.7%でした。気管内挿管での人工呼吸管理症例は 52 名で、昨年とほぼ同様でした。持続陽圧呼吸管理症例は 145 名であり、4 年連続で 100 名を上回りました。また 2021 年度より小児外科に光永哲也医師が着任したのに伴い、緊急症例への対応も含めて、新生児外科症例の手術もさらに少しずつ積み重ねております。また 2022 年度も、東京女子医科大学附属東医療センター（現同足立医療センター）新生児科長谷川久弥教授の往診による気管支鏡検査が行われ、新生児期発症の気道病変の管理向上に努めました。

### 2) 院外からの新生児入院依頼の 55.2%に対応

当科は例年入院のおよそ 70%強を院内出生児が占めています。院内出生で入院を要する

患児を他院へ搬送することはできませんので、その時々ベッド状況においてはどうしても院外からの入院依頼に対応できない場合があります。2022年は院内出生児の入院が223名と2021年に比較して16%増加しておりました。結果として、院外からの入院依頼に対応できないケースが増えてしまい、院外からの入院依頼（今年度からは産科への母体搬送依頼は含まず）145件に対して、対応できたのは80件（55.2%）に留まりました。

# 2022年 入院状況

作成：2023/1/31

1) 総入院数 **303 名** (前年比 105.9%)  
 \*院内 **223 名** (前年比 116.1%)

出生体重	入院数	死亡数
～999g	18	1
1000～1499g	22	0
1500～2499g	145	1
2500g～	118	0
<b>合計</b>	<b>303</b>	<b>2</b>

## 呼吸管理

	使用人数	使用日数	平均/日数	平均/入院
人工呼吸器管理(IMV)	52	1649	31.7日*①	17.4%
CPAP,DPAP	145	1514	10.4日*①	41.7%
サーファクタント	35			12.3%

\*①(日数/使用人数)

\*②(使用人数/総入院数)

在胎	入院数	死亡数
22～24週	1	1
25～27週	13	0
28～32週	34	0
33～36週	113	1
37週～	141	0
不明(未受診)	1	0
<b>合計</b>	<b>303</b>	<b>2</b>

2) 入院依頼(院外より) **145 件** (前年比 111.5%)

① 新生児科入院 **80 件**  
 55.2% (入院/入院依頼)

救急車	79	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って救急車にて当NICUに入院した症例
自家用車	0	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って自家用車にて当NICUに入院した症例
新生児救急搬送	1	*出産施設ですでに出生している重篤な児を当院新生児医師と看護師が救急車で迎えに行きNICUに搬送した症例
分娩立会+搬送	0	*新生児医師と看護師が救急車で出産施設に出向き、分娩に立ち会ったうえでNICUに搬送した症例
三角搬送	0	*医師が救急車等で依頼元医療施設へ行き、新生児と同乗してほかの医療施設へ搬送した症例
<b>合計</b>	<b>80</b>	

② 受入不可 他院へ **65 件** (前年比 185.7%)  
 40.7% (当院満床/入院依頼)  
 4.1% (満床以外不可理由/入院依頼)

満床	59
新生児科受入不可	6
(新生児科ほか対応中)	1
(順天堂浦安病院該当)	1
(船忠への入院選択)	1
(外科疾患疑い嘔吐あり)	1
(受入不可理由台帳に記載なし)	2

千葉市立 海浜病院 新生児科

## 4 1年間の総括

- 引き続き新型コロナウイルス感染症の流行が見られましたが、新生児科の入院数は本年も有意な減少を来すことなく例年通りで経過し、大きな影響を受けることはありませんでした。親御さんの面会に関しても、親子関係を育むという当科の特徴を鑑みて、臨機応変な対応を行うように努めました。
- 本年度は残念ながらスタッフ数が9名から6名へと減少となり、厳しい診療体制となりました。
- 本年度は、例年7割を占める院内出生児の入院数が前年比116%へ増加し、かつ院外からの入院依頼数も前年比111%へ増加しました。結果として院外からの依頼には55%にしか対応することができませんでした。
- 2021年度の当院小児外科への小児外科専門医の着任に伴い、少しずつ症例を積み重ねることができ、緊急症例への対応も可能となってきました。

## 5 今後の目標

今後も院外からの入院依頼症例の収容不能率を20%未満に抑える目標が継続できるよう、医師の確保・育成に力を注ぎたいと考えています。